

【政策7】 都市基盤

基本施策19 道路の整備と適正管理

【施策統括課：道路交通課 主な関係課：都市計画課】

<現状と課題>

- 現在、全国の地方公共団体では1950年代半ば(昭和30年頃)から1970年代初頭(昭和47年頃)の高度経済成長期に集中的に整備されたいわゆるハコモノといわれる公共建築物や道路・橋梁等のインフラ施設を含めた公共施設の老朽化が一斉に進行しています。
- このような状況の下、国では、平成25(2013)年11月に「インフラ長寿命化計画²⁶」を策定し、インフラ機能の確実かつ効率的な確保に向け「安全・安心の確保」を前提とした「中長期的視点に立ったコスト管理」が必要だとしています。
- 一方、かつては、自動車を中心に、生産性の向上に重点を置いた道路整備が行われていましたが、高齢化等の時代背景の変化に伴い、だれもが安全に移動できる「人にやさしい」道路整備への要請が高まるなど、道路に求められる役割が変化してきています。
- 今後、国立市においても、道路施設の老朽化の進展に伴い、平成30(2018)年5月に策定した「国立市道路等長期修繕計画」に基づき、計画的な維持管理を進めるとともに、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、だれもが安全で快適に使いやすい道路となるように、いかにより効果的・効率的に維持管理していくのが極めて重要な課題となっています。
- 都市計画道路は、人、自転車及び自動車のほか、公共交通などの移動を支える交通機能をはじめ、都市の防災性の向上や上下水道施設、共同溝等のライフラインの収容等を担うなど、多様な機能を有する根幹的な都市施設であり、機能的に連携されたネットワークを形成することにより、市民生活や都市活動を支えるものです。
- 平成28(2016)年3月には、東京都と特別区及び26市2町が連携・協力の下、「東京における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)」が策定され、これに基づき、国立市でも優先整備路線の事業化及び見直し候補路線の廃止に向けた取り組みを行っています。
- しかし、市内の都市計画道路の整備率は約38%にとどまっており、生活道路に通過車両が流入するなどの課題解決をはじめ、地域の特性や将来需要に応じた道路網を整備していく必要があります。

<施策の目的及び体系>

だれもがより安全で快適に移動できる「人にやさしい道づくり」を進めます。

基本施策19 道路の整備と適正管理

展開方向1

既存の道路空間の安全性・快適性の確保

展開方向2

計画的な道路網の整備

26 国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業(メンテナンス産業)の競争力を確保するための方向性を示すものとして、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理するあらゆるインフラを対象に策定。

<展開方向1:既存の道路空間の安全性・快適性の確保>

【目的】

歩行者、自転車、自動車など道路を利用する全ての人々が、安全で快適に移動できる道路空間を確保します。

【手段】

- ◆人々の暮らしの安全性・快適性を確保するため緊急度や重要度に応じ、老朽化した舗装・道路施設の補修やバリアフリー対応の歩道整備等を計画的に推進します。
- ◆さくら通りを2車線に減線し歩行者と自転車の通行を区分することで、人にやさしい道への改修を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
歩道の改良率	%	規格改良済(バリアフリー化)の歩道延長/歩道総延長×100	20.6 (2018年)	27.0	32.8
道路施設に起因する事故件数	件	道路管理瑕疵による損害賠償の件数	1 (2018年)	毎年度0件	

<展開方向2:計画的な道路網の整備>

【目的】

地域の特性・課題に対応した秩序ある道路網の形成を図ります。

【手段】

- ◆優先度の高い路線を抽出した上、沿道の地域住民の理解と協力のもと、その着実な整備を推進します。
- ◆都及び関係区市町で連携・協力の下、都が策定した「東京における都市計画道路の整備方針」の第四次事業化計画に基づき計画的な整備を推進していきます。
- ◆優先整備路線以外の都市計画道路は、広域的なネットワークとして機能することを前提に、改めて計画について検証し、必要に応じて段階的な整備を進めます。また、一部の未整備の都市計画道路については、環境上の配慮などを含めた様々な観点から、必要に応じて計画の見直しを検討します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
都市計画道路の整備率	%	同左	38.2 (2018年)	38.7	40.0